

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070800293	
法人名	社会福祉法人 小諸青葉福祉会	
事業所名	グループホーム やまびこの家	
所在地	長野県小諸市柏木1326-1	
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成24年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症状のある要介護高齢者に対し、少人数で馴染みのある環境の中、安心できる共同生活を提供すると共に、介護やその他の支援によって、明るく楽しい家庭的なつくりのある生活空間を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが安心できる家庭的な生活を送る。 家庭、近隣、ボランティア等人が気軽に立ち寄る事が出来る場所とする。 運営推進委員会や行事への家族参加
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地を見下ろし、畑や住宅が点在するゆるやかな傾斜地に、同法人経営の福祉施設が複数あり、敷地の南端に保育所に隣接して事業所の平屋のモダンな建物がある。昨年度は、運営推進会議を市の協力も得て、4回開催され、今年度も既に3回開催されている。会議には、ご家族が半数以上出席され、地域の方々、行政の参加もあり、ご家族の想い、意見と共に行政、地域の方の要望など活発に意見交換され、より優れたサービスを目指す事業所運営に大きな力となっている。事業所は平成13年に開所されてから年数を経て、利用者の重度化や、終末期を迎える方もおられ、ご家族の事情の変化もあり、医療関係者などと共に事業所としての力量も考慮しながら、チームとして試行錯誤しながら、日々のケアに取り組まれている。非常災害対策として、消防署、地域の協力も得て、夜間に避難訓練を実施されている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印	項目
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示をし、各自確認し、理念を共有し、実践に繋げている。	法人全体の理念、事業所独自の理念が事務室内に掲示され、事業計画、朝夕のミーティング等の場で確認され、家族会のおりには家族にも話され、実践につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	法人内の行事等に参加し、その場でその地域の方との交流はあるが地域参加行事参加は難しい。	敷地内の法人内の行事(文化祭、音楽や踊りの発表、そばうち等)には利用者も参加され、地域の方との交流もある。踊りのボランティアなどや中学生の職場体験を受け入れている。隣の保育所の子ども達とは畑を一緒に作ったり、自由にテラスに出入りして時には歌を歌ったり、日常的に交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会において、認知症・事業所内での取り組みを知っていただくように資料を作ったり、普段の生活や行事等の写真で説明した。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において職員が参加し、意見交換を行っている。また、緊急時の協力体制について確認を行い、避難訓練時に参加をしていただいた。	会議は、市の担当者、包括職員、区長、民生委員、区の消防班、訪問看護担当者、協力歯科医、家族など関係する方々が一同に会し、それぞれの立場から、活発な意見交換をされている。議事録等も整備され、協力してサービス向上に向けて検討されている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回のサービス調整会議への参加をすることにより普段より情報のやり取りを行い、小諸市との協力関係を築いている。	月1回の市の会議では、介護保険事業所全体への連絡と共に、市内4カ所のグループホームの部会もあり、市の担当者や市内他事業所とも情報交換もされて、協力して取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで日中は外出時以外常時開けており、自由に出入り出来るようになっている。その他の身体拘束についても職員研修の中で勉強する等し、ケアに努めている。	玄関は夜間のみ施錠されている。法人全体の拘束の研修に職員が参加し、職員会議で報告されている。ケアの中でも、「ダメ」を使わない取り組みなど、実践的な研修を実施している。拘束の必要な場合の手順、書式など整備しているが、現在は拘束の必要な方はおられない。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において学ぶ場を提供し、虐待防止について理解し、防止に努めている。法人全体研修や外部研修への参加を行った		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や職員研修において書面や資料等を通して理解に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時、書面及び口頭で行い不安や疑問点を解消し、理解や納得をして頂ける様に努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は常に受入れ改善に取り組んでいる。また運営推進会議やサービス調整会議などで外部者へ、それらを表している。	年1回の春の家族会はほぼ全員が参加され、個々の面談も実施し、意見要望等をお聞きしている。運営推進会議も半数以上の家族が参加され、想いや意見が語られ、その中からの家族同士の交流や行事への参加も増え、面会時や電話等でもお話を伺い、運営に反映し、直接あるいは会議で報告することを心がけて実施している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りの中や、職員会議において常に職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	1-2か月に1回の職員会議や、朝夕のミーティングを充実させ、記録の様式を整備し、職員全員で、意見提案を共有する仕組みもできている。改善できる事は職員の意見ですぐに取り組むなど、前向きに取り組んでいる事を記録やお話でうかがった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、目標実績確認表等により個別面接を定期的に行い、個々の努力や実績、勤務状況の把握に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や佐久圏域グループホーム連絡会での研修、相互評価等に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス調整会議や佐久圏域グループホーム連絡会を通し交流や互いに勉強しサービスの質を向上できるように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に管理者及び計画作成担当者が本人と会い、現状把握をすると共に今後の生活について話す機会を設け、信頼ある関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの際や契約する際などに、管理者及び計画作成担当者が、ご家族と会い家族の意向・要望を聞く機会を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族からの情報だけではなく、ケアマネージャーや利用していた事業所等から書面や口頭等による情報提供を含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの「生きる力」が発揮できるように一人ひとりに寄り添い共に生活を送るように努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡(面会時や電話などで)を密に行い、共に本人を支える事が出来るような関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人たちが面会に来たり贈り物や手紙などで、その関係を継続出来るように努めている。ADL状況低下により馴染みの場所への外出が困難である。	個人別の面会簿が作成され、ご家族、親戚、知人等の面会が記入されている。毎週電話して頂くご家族にも取り次ぎだけでなく、面会時などに家族へのアドバイスも行い、途切れない様に広く支援を行っている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用しあう関係が築きあえるような支援に努めている	個別に話を聞く等をし、利用者同士の思いを把握し、間に入ったり、一緒に関わる等利用者同士の関わりや支えあいが出来る様に努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方々は長期間経過している為、情報収集が困難である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から話を聞く等をし、その人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	いろいろな場面、言葉から思いや意向の把握に努めている。外出時、面会時なども家族に話をうかがいながら、本人のふとした言葉などからの思いを生活歴に付け加え、記録方法も工夫しながら、検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	専用シートを用意し家族へ情報記入の依頼をし、協力を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズムを理解し、現状把握に努めている。アセスメントシートの活用、定期的な見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的、又は必要に応じて本人・家族への聞き取りや話し合いを行い、課題分析、モニタリング、ケースカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	介護計画は半年ごとに見直しをされており、職員の日々の記録からの情報を元に、家族にも話を伺いながら、本人とも相談し担当者が作成している。病状によっては、病院での担当者会議に参加して、変更したり、現状に即した計画となるように、作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・夜勤日誌・ケース記録の記入とそれの確認により職員間での情報の共有をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズを想定し、介護用品・備品等を準備し、又は他部署から備品を借用する等をし、状況発生時に速やかに対応出来るようにしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長・民生委員へ協力依頼をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>契約時に主治医、緊急時の病院について話をし、それに沿った対応を行っている。5月の家族会時、意向の再確認を行った。家族での受診対応の協力を頂いている。</p>	<p>ほとんどの方が、協力医を主治医とし、家族の意向を尊重しながら対応している。受診も家族の状況の変化に合わせて、協力を頂いている。歯科医は必要時往診して頂いている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回(水)訪問看護師が来訪し、日々の状況を伝えたり相談し、必要に応じ受診をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、家族や病院と連絡をとり面会や電話にて情報交換や早期退院に向けての話し合いを持っている。入院先の病院にてケア方法の指導を受けた。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>状態変化について、主治医・看護師等と連携をとり家族へ説明を行っている。必要に応じ主治医・家族・職員とのカンファレンスを行っている。</p>	<p>看取りにむけて事業所の指針を作成している。状態の変化に応じて、医師の説明時には、ご家族と同席させて頂き、ご家族と共にチームとして支援できるように心がけている。本人とご家族の意思を尊重しながら、事業所の力量を職員と確認しつつ、家族、医療関係者と共にチームとして方針を共有して重度化した方への支援に取り組んでいる。</p>	<p>事業所の方針を、契約時にも説明されているが、入居者の重度化や終末期に向けて、事業所としての限界もあり、家族の状況にも変化がある。長い方もおられるので、家族会のおりなどに、機会を設けて看取りの指針をもとに、事業所としての方針を再度説明されることを望む。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署での救命講習を受講したり、職員研修において実践力を身につけている。また、緊急時マニュアルを設置している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に昼間・夜間での避難訓練を実施している。また地域の方も参加してもらい協力体制を築いている。(運営推進委員会において実施報告、協力の依頼を行っている。9月29日に夜間想定避難訓練を行った。次回は25年3月頃を予定)</p>	<p>9月には、法人一斉に、各施設それぞれに避難訓練を実施している。消防署、区長さん、民生委員さん参加で夕方7時に実施している。3月には、昼間の避難訓練が計画されている。食品、水の備蓄もされている。</p>	<p>年2回の定期訓練以外にも、日頃から通報訓練、連絡網の点検、備蓄食料の試食など、様々な場面を想定されて、日常のなかでの繰り返し訓練、備えを期待する。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを常に念頭に置き一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう丁寧な言葉かけや対応を実践している。「やまびこ」の宣言を活用し自身のケアの振り返り等を行っている	事業所の理念にも唱われ、法人独自の「やまびこ」の宣言を夕方に読み合わせを実施しており、言葉かけや対応を振り返っている。人生の先輩に教えてもらうことが多々あるとの思いで接するように心がけていると伺った。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表しやすいような日々のケア、関係作りに努め、自己決定ができるような声掛け、働き掛け、環境作りに努めた。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の1日の生活リズムを大切にしながら、日々の体調変化・要望・希望等があれば訴えを優先できるよう支援している。(離床・臥床の時間、食事時間・食事場所、行事等への参加等)		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、毛染めの対応。状況に合わせた身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立づくりを利用者の声を聞きながら行っている。また調理や片づけを職員と一緒に行っている。	献立は職員が作成している。職員も一緒に食卓を囲み、ミキサー食の方も一緒にテーブルで介助して食事している。季節の物を取り入れる様努め、畑で取れた小豆を使ったおはぎを当日はご馳走になった。食後、輪の中心になって、食器を洗い、布巾で拭いている入居者の姿を拝見した。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分チェックを都度行い、必要に応じて捕食や飲みやすい水分の提供を行っている。食事メニューの栄養バランスを法人内の栄養士にチェックしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後に行っている。必要時は昼食後も行っている。個々の状況に合わせて見守り、介助行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時対応の他、その日の利用者の状況に合わせて支援を行っている。またオムツ使用者も基本的にトイレを使用している。	排泄はトイレでの排泄を基本としている。その方の状態、その日の様子に合わせて、見守ったり、失禁パットやおむつ、ポータブルトイレを使用したり、個々に合わせたの支援に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状況に合わせて飲食物を工夫したり、腹部マッサージや運動をしている。また、医師や看護師と連携を図り対応している。(10時のコーヒーをヤサイジュース、牛乳に変更した)		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	介護度重度につき職員介助が必要な為、曜日を決めている。(月・木)	浴槽が、深く大きく、浴室がタイル張りの床のため、職員2名体制での入浴介助が必要であり、現状の固定の曜日の入浴が限界である。家族からも、入浴への要望も出ており、運営推進会議でも議論され、職員の工夫も限界である。入浴剤、ゆず湯など工夫されている。	浴室の改築、もしくはリフトなどの設置や入浴時のボランティアなど人的資源の投入などで、曜日、時間が固定されない個々にそった入浴支援が期待される。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に合わせて寝る場所や時間等柔軟な対応をしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合は申し送りをしたり、最新の処方箋を個々にまとめ、いつでも確認できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のお手伝いの中で役割を感じてもらったり、季節行事や手作りおやつを提供し季節感を楽しんだり気分転換を図っている。また、手芸教室に参加したり、隣接する託児所の子供たちと触れ合ったりもしている。			
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者と話し合いのもと、外出場所、日程を皆で決め外出している。	食堂前の掃出し窓からテラスが続き、隣接する保育園と南側の畑に直接出かけることも可能で、保育園の子ども達も自由に出入りしている。敷地内の法人の他事業所の行事や催しなどにも参加し、春秋にはドライブに出かけ、生き生きとした入居者の写真を拝見した。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じ、家族の承諾の上購入している。但し、金銭管理が不可能なので立替金にて対応している。			
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の訴えあった時、また、本人の状況に応じ電話をかけている。土曜日に定期的に電話をかけてきてくれるご家族もある。			
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間を利用し、手作り作品や季節の花を飾り、生活感・季節感が感じられ雰囲気作りを心掛けている。脱衣所においては整理整頓を行い広い空間づくりとカーテンによる仕切りをつけ、廊下との区別をできるよう整えた。	食堂の壁は鮮やかな色に塗り分けられ、居室へ続く廊下は天井が高く、天窓で明るく開放的である。トイレは混乱しないように、職員手作りの札がかけられている。食堂の窓や玄関からは眼下に市街地が見下ろせ、遠くに山々を望むことで季節を感じられ、食堂壁には利用者の作品や写真など掲示されていた。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂だけでなく、廊下や玄関、玄関先に椅子を置き思い思いに過ごせるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に説明行い使い慣れた、馴染みの家具等を搬入して頂いている。また、状況に合わせて都度本人・家族と相談しながら工夫を図っている。	入居者の事情に合わせて、ご家族と相談しながらそれぞれお部屋を整えている。仏壇や位牌を持ち込み、毎朝ご飯とお茶をお供えている方、ひ孫さんの絵、家族の写真、額に入った絵など思い思いの部屋となるよう支援されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮している。洗面所においては、車いす利用者がうがい等しやすいように、下部の扉を外し、膝が入りより洗面台に近づけるよう工夫した。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	評価の	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	看取りの指針を活用する。	看取りの指針にて契約時に説明を行い、書類上での承諾を得る様にする。12月入居新規契約から早速実施している。既に入居されている方は随時行なっていく。	7ヶ月
2	35	災害対策	災害時に備えシュミレーションが出来る様にする。	緊急時の連絡方法、消火器の使い方、火災通報機の使い方、避難経路の確認、利用者の誘導方法など。	12ヶ月
3	45	入浴を楽しむことが出来る支援	少しずつ改善に努める。	入浴を楽しんで頂く為に危険度を考え、足元マットを手作りに切り替えた。入浴時の椅子を使いやすく滑り落ちないようにものを購入する。	3ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。